

生徒が望む励ましの言葉に関する一考察

1年1組 稲葉 鈴香 1年2組 大館 咲羽 1年3組 高野 実紗
1年3組 濱田 妃夏 1年3組 脇田さくら
指導者 檜垣 駿

1 課題設定の理由

先行研究では、ストレッチャー移送の際、看護師の掛け声で患者が安心できることが分かっている。また、保育実習生への励ましの言葉については研究されている。しかしながら、私たちが多く関わる学校生活における言葉掛けの研究はなされていない。そこで、学校生活を送るにあたって、友人間での言葉掛けや先生からの言葉掛けはどのような影響を与えるのかを明らかにし、より良い学校生活への手助けをしたいと思い、この課題を設定した。

2 仮説

生徒にとっては、友人からの言葉掛けのほうが励ましになり、「指摘」の言葉掛けは友人からでも先生からでも励ましにならない。「視点提示」に「共感」の言葉掛けを加えたとき、最も励ましになる。「指摘」の言葉掛けの場合でも、「共感」の言葉掛けを加えることで、励ましになる。

3 実験・研究の方法（アンケート調査）

(1) 1回目（対象：宇和島東高校1年生）

様々な場面において、「激励」「称賛」「共感」「視点提示」「指摘」の5つの言葉掛けから、どの言葉が励ましになるのか、先生からの言葉掛けと友人間での言葉掛けで分けて調べる。「テストで悪い点を取ったとき」、「忘れ物をしたとき」、「友人と喧嘩したとき」の3つの場面を設定した。

(2) 2回目（対象：宇和島東高校1年生）

(1)と同じ場面において、1回目のアンケートでは励ましになったと答えた人が少なかった「視点提示」「指摘」に「激励」「称賛」「共感」のうち、どの言葉を加えれば励ましになるのかを調べる。

4 結果と考察

(1) 1回目（対象：宇和島東高校1年生）

先生からの言葉掛けの方が励ましになることが分かった。特に、「激励」「共感」「称賛」の言葉掛けが励ましになる。しかし、「指摘」は先生からでも友人からでも励ましにならない。

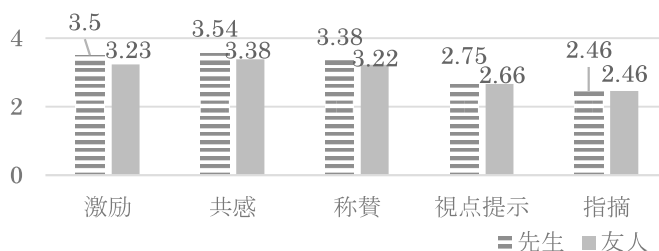


図1 どの言葉が励ましになるか

図2、図3に2回目のアンケートの結果をまとめた。

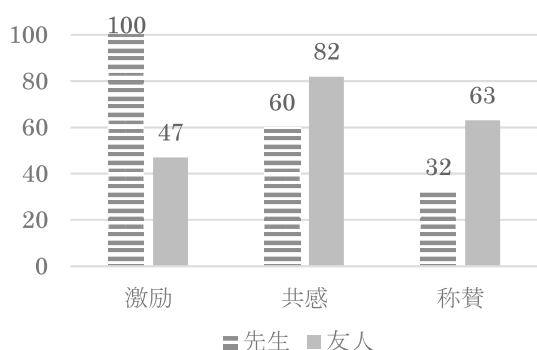


図2 視点提示にどの言葉を組み合わせたら励ましになるのか
単位：人

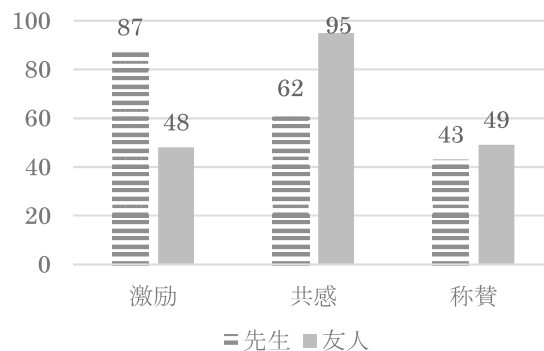


図3 指摘にどの言葉を組み合わせたら励ましになるのか
単位：人

先生からの言葉掛けは、「視点提示」「指摘」のどちらにおいても、「激励」の言葉を付け足すことで励ましになると感じる人が多い。生徒間での言葉掛けは、「視点提示」「指摘」のどちらにおいても、「共感」の言葉を付け足すことで励ましになると感じる人が多い。男女での違いは、大きく見られなかった。

(2) 考察

否定的な言葉掛けよりも肯定的な言葉掛けの方が励ましになると考える。また、友人からの言葉掛けで「共感」の言葉が励ましになるのは、自分と同じ考えの人がいると実感できて安心するからだと考える。

5 まとめと今後の課題

「激励」「共感」の言葉掛けはどの場合においても励ましになることが分かった。また、先生からの言葉掛けと友人からの言葉掛けでは、励ましになる言葉が異なるということが分かった。

今後の課題は、2回目のアンケート内容においても、励ましと感ずる度合いにどのような差異が見られるのか調べることである。

参考文献

- ・佐々木典彰、島内智秋 (2018) 「保育実習生が望む励ましの言葉に関する一考察」東北女子短期大学 紀要
- ・佐々木典彰、島内智秋、江莉川淳子 (2019) 「実習指導者が重視する保育実習生の励ましの言葉について」東北女子短期大学 紀要
- ・伊波綾菜、末次典恵 (2020) 「ストレッチャー移送における看護者の声かけの影響」宮崎大学